

2020年3月期

# 決算説明資料

発想・挑戦・実行で  
時代に選ばれる企業へ



## 目次

**1** 2020年3月期 決算概要

**2** 2021年3月期の通期見通し

**3** 今後の展望

**4** 会社概要

# 1 2020年3月期 決算概要



- 雇用・所得環境の改善を背景に国内経済の緩やかな回復基調の景況感が見られるが、米中貿易摩擦の長期化や国内での相次ぐ自然災害、消費税増税などの影響に加え、年度末には新型コロナウイルスの世界的感染拡大で東京オリンピック・パラリンピックの延期が決まるなど、国内外の経済活動や金融市場に多大な影響が及ぶ不透明な状況。
- 道路建設業界は、民間設備投資が増加しているものの、受注競争の激化や労務需給、原材料価格等の動向に注意を要するなど、経営環境は引き続き厳しい状況の中で推移。

## 2020年3月期の主な取り組み事項

- 1 受注機会増大のためのグループ全体の総合力強化の取組み。
- 2 利益拡大のためのコスト抑制の取組み。
- 3 独占禁止法関連損失引当金戻入益の計上。
- 4 普通配当（前期と同額の120円）に加えて特別配当の実施（20円）。
- 5 中期経営計画（2017-2021年度）における各種施策の推進。
- 6 コーポレートガバナンスの適切な実践とコンプライアンス経営の強化。

# 1 決算概要（連結・単体）

（単位：百万円）

連結	2019年3月期	2020年3月期	対前年増減	増減率
売上高	103,676	109,123	5,447	5.3%
売上総利益	10,778	12,244	1,466	13.6%
販売費及び一般管理費	7,125	7,491	366	5.1%
営業利益	3,653	4,753	1,100	30.1%
経常利益	3,728	4,869	1,141	30.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲231	4,116	4,347	—

単体	2019年3月期	2020年3月期	対前年増減	増減率
売上高	74,521	79,183	4,662	6.3%
売上総利益	6,391	—	—	—
販売費及び一般管理費	4,802	—	—	—
営業利益	1,588	2,398	810	51.0%
経常利益	1,698	2,535	837	49.3%
当期純利益	▲1,354	2,777	4,131	—

- 連結売上高は前期比5.3%増の109,123百万円。国土交通省（侍浜地区舗装工事）や西日本高速道路（株）（高松自動車道 鳴門舗装工事）等の完成工事高が前期比6.5%増の72,520百万円となったことが要因。
- 売上原価、販管費の抑制が寄与し各利益は売上高以上に伸長。また、当期純損益は独占禁止法関連の解消で特別利益を計上し黒字転換。

# 1 セグメント別売上高・損益実績（連結）

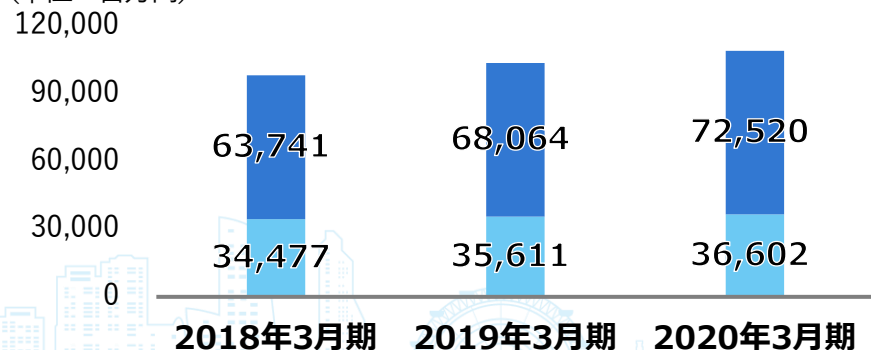
（単位：百万円）

売上高	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	対前年増減	増減率
建設事業	63,741	68,064	72,520	4,456	6.5%
製造販売・環境事業等	34,477	35,611	36,602	991	2.8%
売上高合計	98,218	103,676	109,123	5,447	5.3%

営業利益	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	対前年増減	増減率
建設事業	2,482	2,599	3,367	768	29.5%
製造販売・環境事業等	3,575	2,841	3,454	613	21.6%
営業利益合計	6,058	5,441	6,821	1,380	25.4%

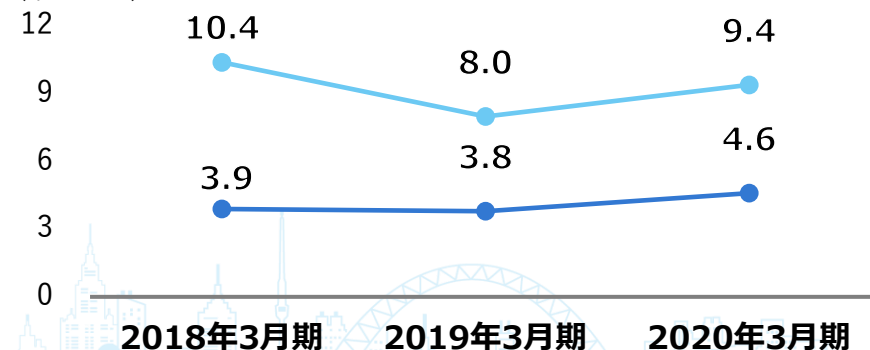
売上高 ■ 建設事業 ■ 製造販売・環境事業等

（単位：百万円）



営業利益率 ● 建設事業 ● 製造販売・環境事業等

（単位：％）



- 建設事業は、売上高が前年比6.5%増、営業利益は前年比29.5%増と増収大幅増益。
- 製造販売・環境事業等は、売上高が前年比2.8%増、営業利益は前年比21.6%増と増収大幅増益。

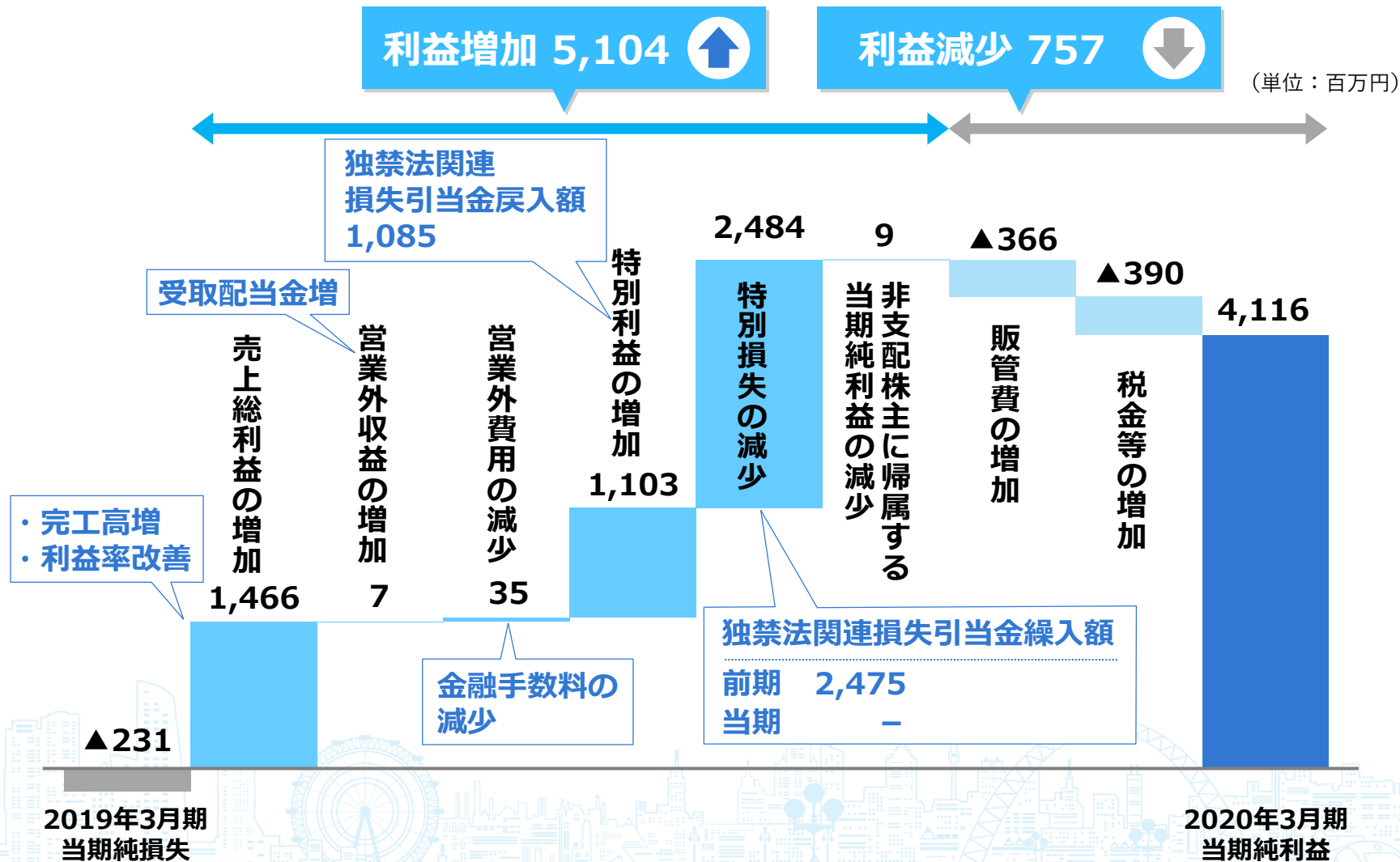
(単位：百万円)

	2020年3月期		対前年増減	増減率
	金額	構成比率		
売上高	109,123	100.0%	5,447	5.3%
売上総利益	12,244	11.2%	1,466	13.6%
販売費及び一般管理費	7,491	6.9%	366	5.1%
営業利益	4,753	4.4%	1,100	30.1%
営業外収益	265	0.2%	7	2.7%
営業外費用	148	0.1%	▲35	▲19.1%
経常利益	4,869	4.5%	1,141	30.6%
特別利益	1,129	1.0%	1,103	4,242.3%
特別損失	94	0.1%	▲2,484	▲96.4%
税金等調整前当期純利益	5,904	5.4%	4,729	402.5%
法人税等	1,651	1.5%	390	30.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,116	3.8%	4,347	—

- 売上高の前期比の伸びに比べて各利益の伸びが大きい結果となった。
- 売上原価および販管費を抑制し、それぞれコストアップを回避。
- 特別利益を独禁法違反関連の引当金と課徴金納付命令額の差額として計上。



# 1 当期純利益の増減要因分析（連結）



● 建設事業利益、建設材料等の製造販売・環境事業等利益がともに増加したことに加え、特別利益の増加、特別損失の減少により、当期純利益は大幅な増益となった。



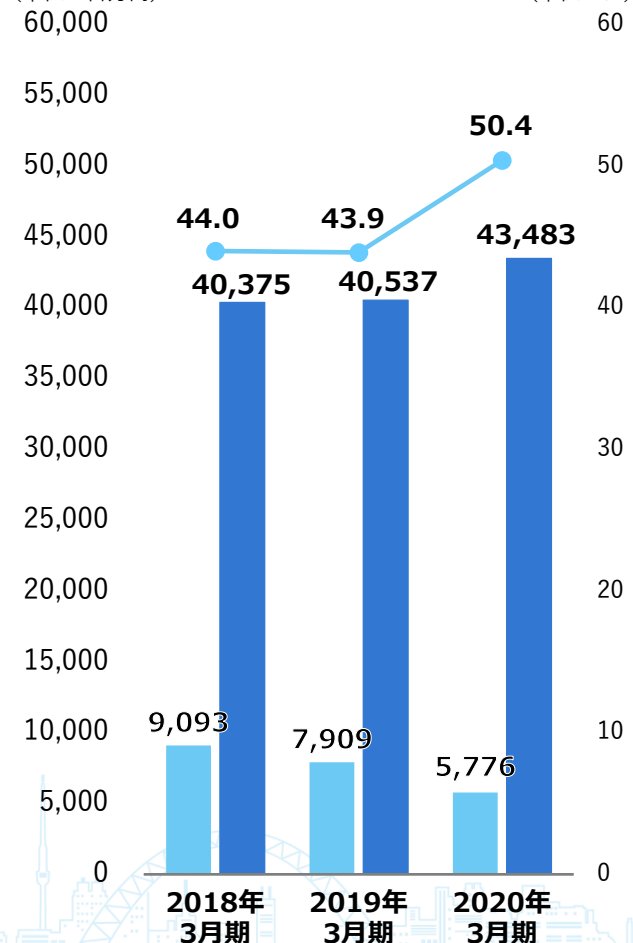
## 連結財政状態

(単位：百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年増減
資産合計	89,426	89,813	84,027	▲5,786
負債合計	49,051	49,275	40,543	▲8,732
有利子負債	9,093	7,909	5,776	▲2,133
(短期借入金)	4,361	3,303	2,464	▲839
(長期借入金)	4,480	4,450	3,252	▲1,198
(社債)	252	156	60	▲96
純資産	40,375	40,537	43,483	2,946
自己資本比率	44.0%	43.9%	50.4%	-

■有利子負債 ■純資産 ●自己資本比率

(単位：百万円)



## 連結キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期
営業活動によるCF	10,959	3,262	▲3,734
投資活動によるCF	▲779	▲3,250	▲1,752
財務活動によるCF	▲910	▲1,890	▲2,878
現金及び現金同等物の増減額	9,270	▲1,878	▲8,365
現金及び現金同等物の期末残高	22,298	20,419	12,053

- 総資産は現金預金と投資有価証券が前年比で減少し、前期比5,786百万円の減。
- 負債は長短借入金が前年比減少し、前年比8,732百万円の減。純資産は利益剰余金が前年比で増加し、前期比2,946百万円の増。これにより自己資本比率は50%を超える。

2

# 2021年3月期の通期見通し



## 2 受注高・売上高・繰越高（連結）

（単位：百万円）

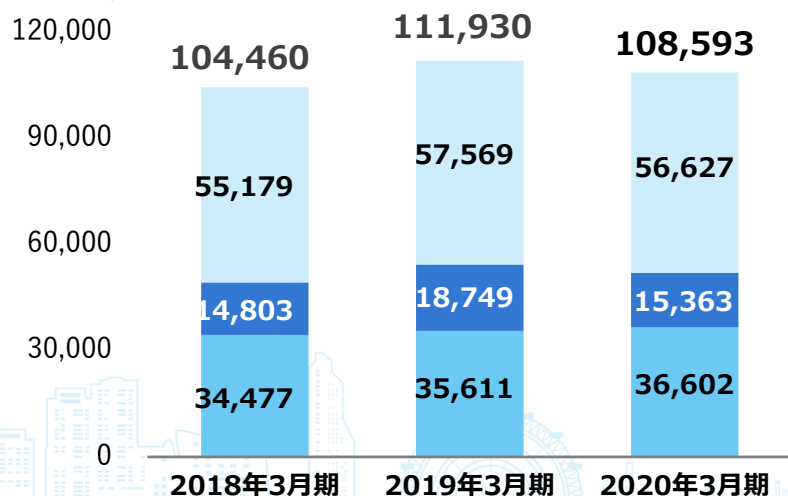
受注高の推移	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期		対前年増減	増減率
	金額	金額	金額	構成比率		
建設事業	69,982	76,318	71,990	66.3%	▲4,328	▲5.7%
舗装工事	55,179	57,569	56,627	52.1%	▲942	▲1.6%
土木工事	14,803	18,749	15,363	14.1%	▲3,386	▲18.1%
製造販売、環境事業等	34,477	35,611	36,602	33.7%	991	2.8%
受注高合計	104,460	111,930	108,593	100.0%	▲3,337	▲3.0%

（単位：百万円）

### 受注高

■ 舗装工事 ■ 土木工事 ■ 製造販売、環境事業等

（単位：百万円）



### 売上高の推移

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
建設事業	63,741	68,064	72,520
舗装工事	50,285	53,527	54,872
土木工事	13,456	14,536	17,648
製造販売、環境事業等	34,477	35,611	36,602
合計	98,218	103,676	109,123

（単位：百万円）

### 繰越高の推移

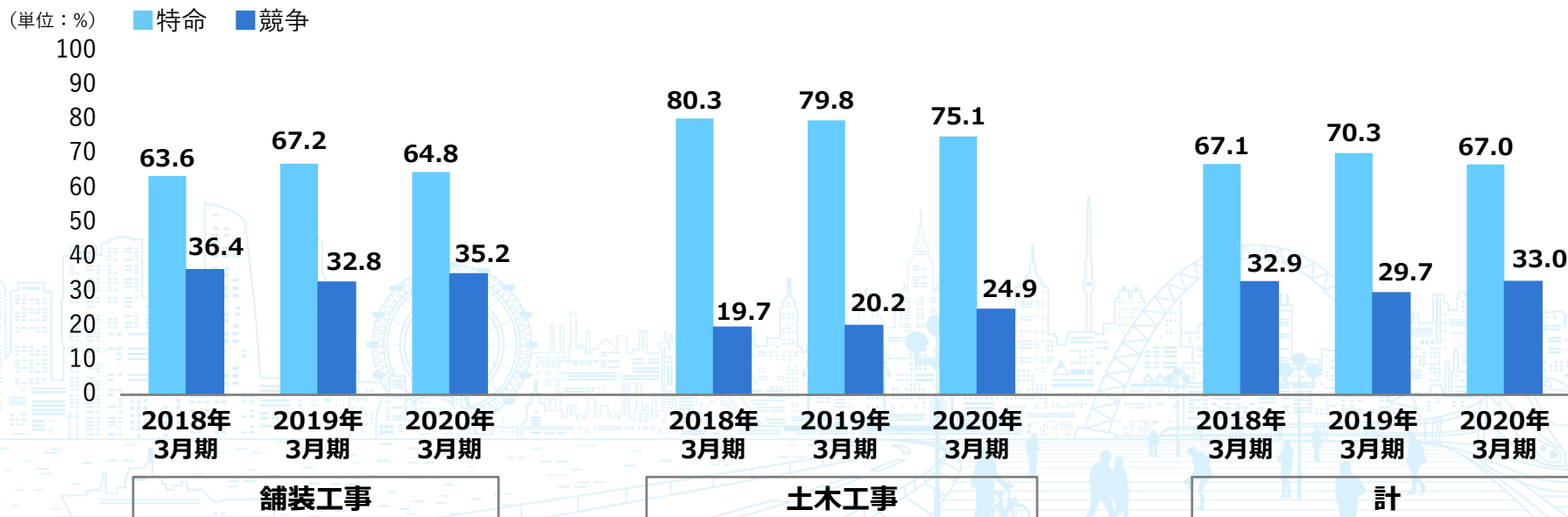
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
建設事業	28,102	36,356	35,826
舗装工事	23,436	27,477	29,233
土木工事	4,665	8,878	6,593
合計	28,102	36,356	35,826

- 合計では前年比3.0%減の108,593百万円。
- 建設事業の前年比5.7%減が響く。特に土木工事の前年比18.1%減収が影響。
- 一方で製造販売、環境事業等は、前年比2.8%増となった。

## 2 受注工事高の受注方法別比率

受注工事高の受注方法別比率		特命	競争
舗装工事	2018年3月期	63.6%	36.4%
	2019年3月期	67.2%	32.8%
	2020年3月期	64.8%	35.2%
土木工事	2018年3月期	80.3%	19.7%
	2019年3月期	79.8%	20.2%
	2020年3月期	75.1%	24.9%
計	2018年3月期	67.1%	32.9%
	2019年3月期	70.3%	29.7%
	2020年3月期	67.0%	33.0%

### 受注工事高の受注方法別比率



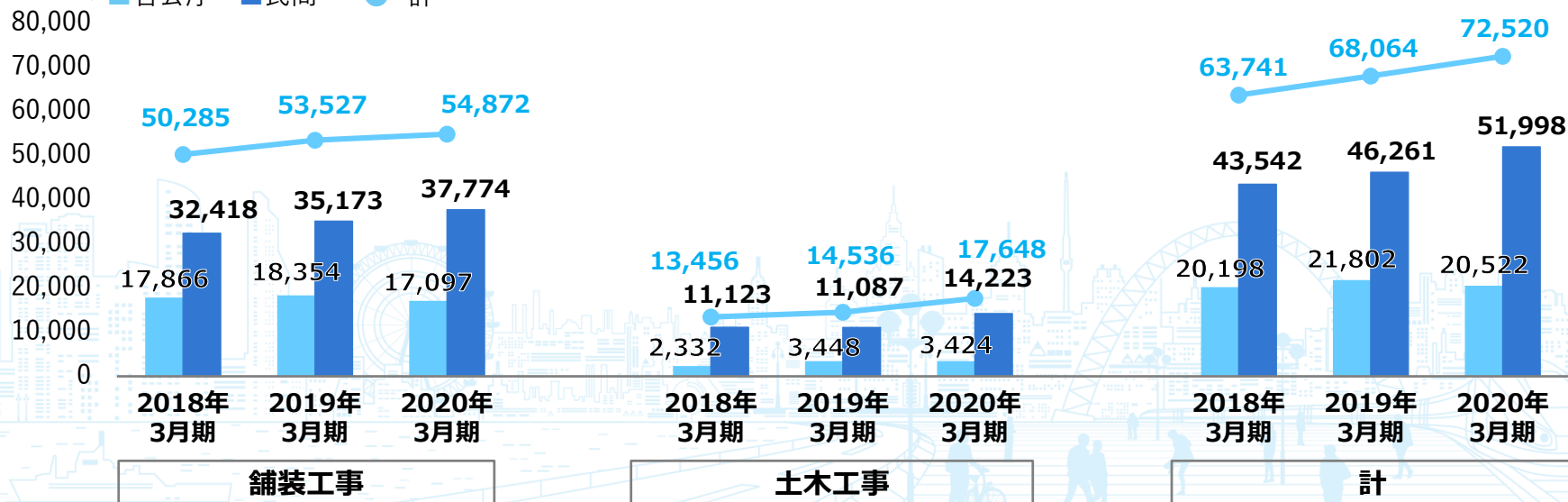
## 2 完成工事高

(単位：百万円)

完成工事高		官公庁	民間	計
舗装工事	2018年3月期	17,866	32,418	50,285
	2019年3月期	18,354	35,173	53,527
	2020年3月期	17,097	37,774	54,872
土木工事	2018年3月期	2,332	11,123	13,456
	2019年3月期	3,448	11,087	14,536
	2020年3月期	3,424	14,223	17,648
計	2018年3月期	20,198	43,542	63,741
	2019年3月期	21,802	46,261	68,064
	2020年3月期	20,522	51,998	72,520

### 完成工事高

(単位：百万円) ■官公庁 ■民間 ●計





## 2 主な完成工事

### 前連結会計年度 請負金額1億円以上の主なもの

発注者	工事名	工事場所
国土交通省	中部横断自動車道舗装11工事	長野県
国土交通省	今泉地区道路舗装工事	岩手県
国土交通省	二十一浜地区舗装工事	宮城県
国土交通省	平成29年度 福岡空港滑走路増設誘導路新設外改良工事	福岡県
西日本高速道路(株)	九州自動車道 嘉島JCT-松橋IC間舗装震災復旧工事	熊本県
関西エアポート(株)	大阪国際空港アクセス道路改良工事	大阪府
首都高速道路(株)	(高負) YK41工区他高架下舗装他工事	神奈川県

### 当連結会計年度 請負金額1億円以上の主なもの

発注者	工事名	工事場所
国土交通省	侍浜地区舗装工事	岩手県
最高裁判所	東京高地裁中目黒分室(仮称)庁舎既存建物解体2期工事	東京都
西日本高速道路(株)	高松自動車道 鳴門舗装工事	徳島県
徳島市役所	徳島市陸上競技場フィールド・トラック改修工事	徳島県
国立大学法人東北大学	東北大学(青葉山1)屋外環境設備(運動場等)工事	宮城県
(公財)日本サッカー協会	(仮称)JFAナショナルフットボールセンター建設計画(人工芝C,Dピッチ・照明A,Cピッチ)	千葉県
学校法人駒澤大学	駒澤大学祖師谷寮・野球場再整備事業 第4期工事	東京都



中部横断自動車道



大阪国際空港  
アクセス道路改良工事



高松自動車道 鳴門舗装工事



侍浜地区舗装工事

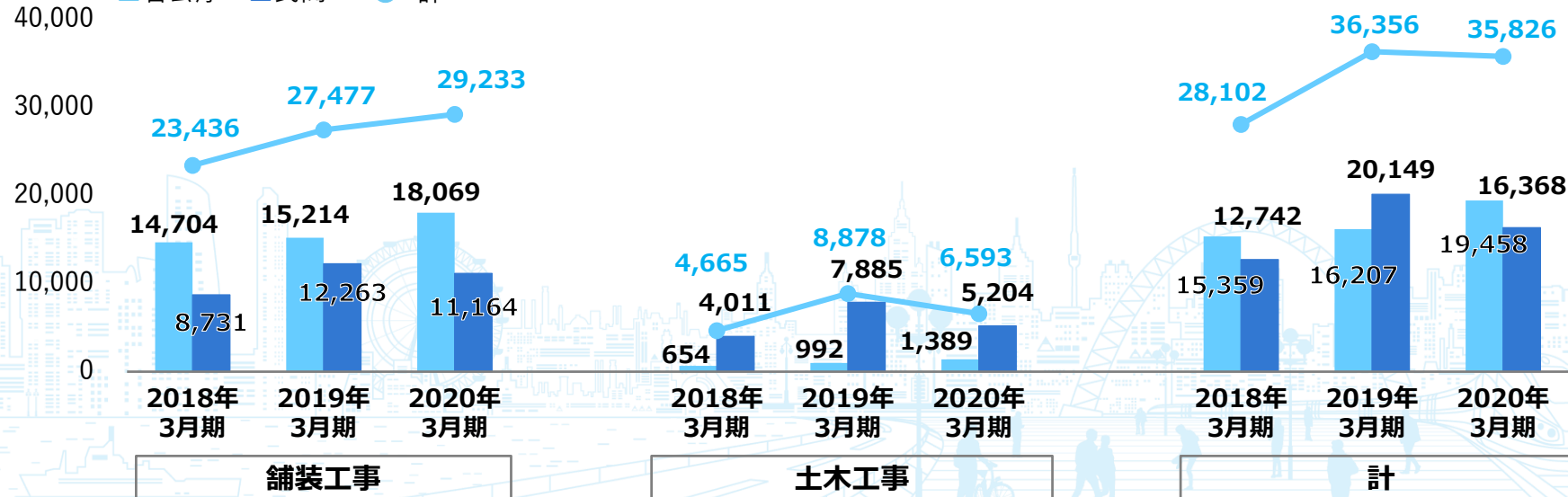
# 2 手持工事高

(単位：百万円)

手持工事高		官公庁	民間	計
舗装工事	2018年3月期	14,704	8,731	23,436
	2019年3月期	15,214	12,263	27,477
	2020年3月期	18,069	11,164	29,233
土木工事	2018年3月期	654	4,011	4,665
	2019年3月期	992	7,885	8,878
	2020年3月期	1,389	5,204	6,593
計	2018年3月期	15,359	12,742	28,102
	2019年3月期	16,207	20,149	36,356
	2020年3月期	19,458	16,368	35,826

## 手持工事高

(単位：百万円) ■官公庁 ■民間 ●計





### 請負金額1億円以上の主なもの

発注者	工事名	工事場所
国土交通省	小子内地区舗装工事	岩手県
国土交通省	大芦地区舗装工事	岩手県
国土交通省	田向地区舗装工事	福島県
西日本高速道路（株）	中国横断自動車道 たつの舗装工事	兵庫県
西日本高速道路（株）	大阪高速道路事務所管内舗装補修工事	大阪府
東京都	港区三田四丁目11番地先から同区高輪二丁目18番地先 間外2か所配水小管布設替工事	東京都
関西工アポート神戸（株）	神戸空港滑走路改修工事	兵庫県



# 2 製造販売事業における生産販売実績

(単位：千t、千㎡(砕石))

(単位：百万円)

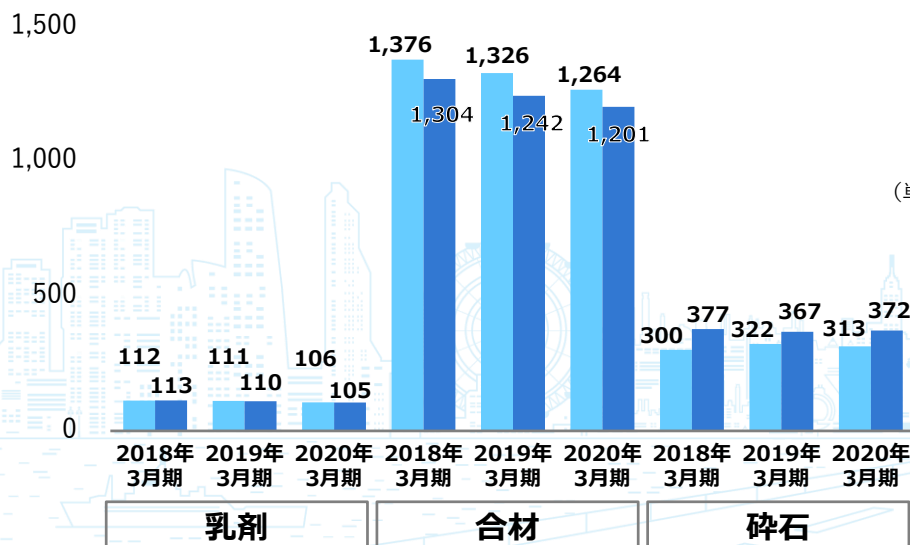
製造販売事業における生産販売実績		製品生産	製品販売
乳剤	2018年3月期	112	113
	2019年3月期	111	110
	2020年3月期	106	105
合材	2018年3月期	1,376	1,304
	2019年3月期	1,326	1,242
	2020年3月期	1,264	1,201
砕石	2018年3月期	300	377
	2019年3月期	322	367
	2020年3月期	313	372

製造販売事業における販売実績		製品販売実績(売上高)
乳剤	2018年3月期	9,520
	2019年3月期	9,758
	2020年3月期	9,452
合材	2018年3月期	10,929
	2019年3月期	11,983
	2020年3月期	11,267
砕石	2018年3月期	657
	2019年3月期	705
	2020年3月期	682
商品	2018年3月期	13,369
	2019年3月期	13,164
	2020年3月期	15,200
売上高計	2018年3月期	34,477
	2019年3月期	35,611
	2020年3月期	36,602

## 製造販売事業における生産販売実績

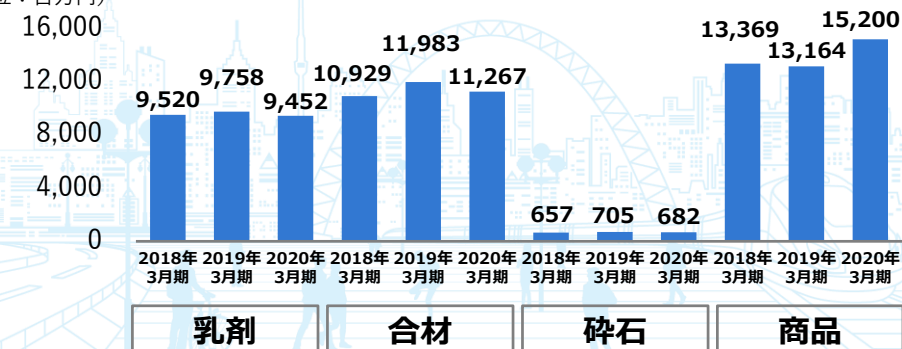
(単位：千t、千㎡(砕石))

■ 製品生産 ■ 製品販売



## 製品販売実績(売上高)

(単位：百万円)



## 2 2021年3月期業績予想（連結）

（単位：百万円）

連結	2020年3月期	2021年3月期 （予想）	対前年増減	増減率
売上高	109,123	105,000	▲4,123	▲3.8%
売上総利益	12,244	—	—	—
営業利益	4,753	4,500	▲253	▲5.3%
経常利益	4,869	4,500	▲369	▲7.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,116	3,000	▲1,116	▲27.1%

- 連結売上高は前年比3.8%減と微減にとどまるよう努める一方で、営業利益と経常利益はコスト抑制を継続するものの売上高よりも前年比で高い減少率を予想。（新型コロナウイルスによる影響を考慮）
- 新型コロナウイルスの世界的大流行による国内経済の下押しリスク懸念や、道路建設業界における企業間の熾烈な受注競争、原材料価格や人件費の上昇に伴うコストの増加等が懸念される。



### 1 自己株式の取得（総額7億円、上限20万株）の実施（2020年5月）

▶ 資本効率の向上および柔軟な資本政策の遂行により、株主への一層の利益還元を図る。

### 2 役員報酬制度の見直し（2020年6月開催予定の株主総会に付議）

▶ 譲渡制限付株式報酬制度の導入による企業価値向上と連動した報酬制度への移行。

### 3 増配予定（2021年3月期）

▶ 普通配当（前期と同額の120円）に加えて、創立90周年記念配当（30円）を実施予定。



# 3 今後の展望



## 中期経営5力年計画(2017年4月~2022年3月) 概要

### CSR経営の実践(目指す姿)

- 東亜道路グループは長年培った技術力を背景に、独自性を発揮し、社会のニーズに応え安心・安全な社会の実現に貢献するため、従業員一人ひとりが日々の業務の中で、コンプライアンスを徹底し、社会の課題解決に貢献することが社会的責任と考えています。

### 計画期間

- 2017年4月~2022年3月(5年間)

### 位置付け

- 経営資源の「選択と集中」を進め、安定した収益基盤を確立する再構築期間
- 持続的な経営革新に取り組み、安定企業グループを目指す

### 中期経営計画の目的

- 環境の変化に即応できる経営体質の構築
- 当社及びグループ企業間の経営資源の連携を強化し総合力を高める
- 実効的なコーポレートガバナンスの実現



## 中期経営5力年計画(2017年4月~2022年3月) 理念

- 5年後を想定した場合、社会・経済環境は人口減少とともに大都市圏への人口の移動が顕著となることが想定されます。そこで社内体制を中長期的な視野に立ち経営資源配分の方向性を時代の変化に備え、スピード感をもって対応します。

### 今後5年間で実施する経営資源配分の方向性

#### ● 労働環境の改善(女性活用・高齢化対策・働き方改革)

将来の就労者不足を想定し、女性技術・技能職員が活躍できる労働環境を整備し、また高齢者が活躍できる場を拡大することにより、技術の伝承を確実にいき高品質なものをつくり社会に貢献します。

#### ● 事業拠点の集約化(組織構造の簡素化)

我が国の社会経済環境は都市への集中が顕著となることが予想されます。そこで、環境の変化に即応するため大都市圏の市場を中核とする組織構造とし、組織行動は中核事業所を中心としたエリア化を図ります。

#### ● 営業エリアの拡大・即応できる施工体制の構築(組織行動の改革)

従来の拠点よりも広い範囲を事業エリアとし、支店(中核事業所)を中心に、営業所、製品工場、合材工場等が一体となって、戦略的かつ柔軟に活動できるようにします。

#### ● 工事・合材・製品・技術営業・グループ企業の販売網の共有化(営業力強化)

情報管理を共有化し、当社グループにおける営業力の強化を図ります。

#### ● 工事部門・合材部門・製品部門・技術部門の総合力が最大限に生かせる総合事務所の構築(組織構造の改革)

我が国は急速な高齢化と人口減少が進み、社会経済基盤は首都圏をはじめ大都市への集中が顕著となることが予想されます。そこで、環境の変化に即応するため工事部門・合材部門・製品部門の主要3部門を統合した総合事務所を開設し、業務の集約化による総合力を発揮して事業の拡大を図ります。

### 実効的なコーポレートガバナンスの適切な実践

- 過去において社会的信用を失った事態を反省し、東亜道路グループ全体として、すべてのステークホルダーに対し、透明性の高い経営を行い、円滑な関係を構築しながら、効率的で健全な経営を維持することにより企業価値の向上を目指します。

### コンプライアンス経営の強化

- 東亜道路グループは、すべての役員及び従業員が企業倫理・コンプライアンスを実践するうえでの基本指針である「行動規範」に基づき、グループ全体で企業倫理の確立に向けた取り組みを推進してまいります。
- そのうえで、法令及び社会規範を遵守するとともに、多様な価値観、地域の文化・慣習を尊重し、企業が企業市民として事業活動を通じて社会に貢献し、人々から信頼される企業を目指します。



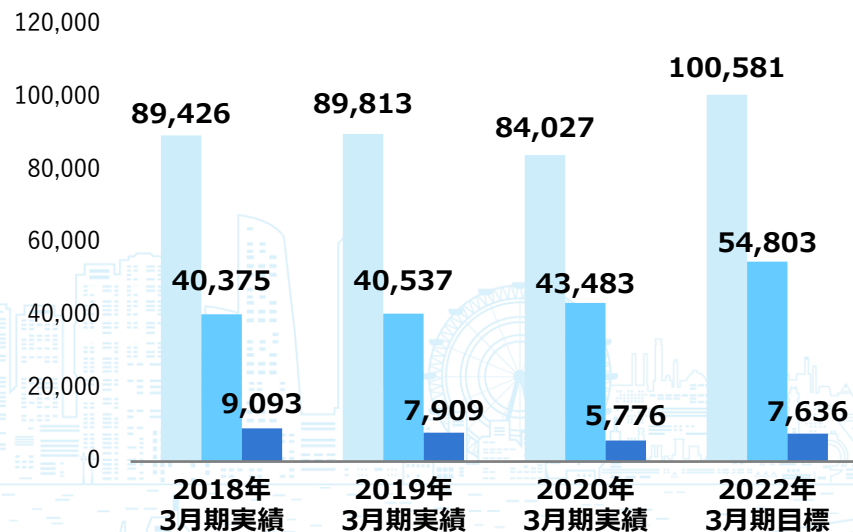
## 中期経営5力年計画 (2017年4月～2022年3月) 数値目標

### 経営数値目標 [連結]

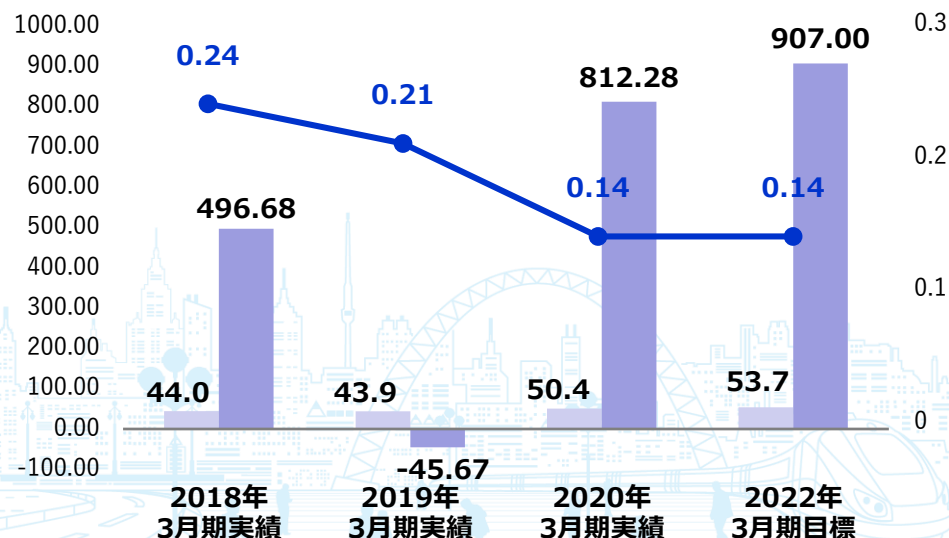
(単位：百万円)

	2018年3月期実績	2019年3月期実績	2020年3月期実績	2021年3月期目標	2022年3月期目標
建設事業売上高	63,741	68,064	72,520		75,000
製造販売売上高	34,477	35,611	36,602		45,000
総売上高	98,218	103,676	109,123	105,000	120,000
営業利益	4,300	3,653	4,753	4,500	7,100
親会社株主に帰属する当期純利益	2,518	▲231	4,116	3,000	4,600

(単位：百万円) ■ 総資産 ■ 純資産 ■ 有利子負債



(単位：円、%) ■ 自己資本比率 ■ EPS (1株利益) ● D/E レシオ (単位：倍)



## 連結経営指標の推移

回次		第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
決算年月		2008年 3月	2009年 3月	2010年 3月	2011年 3月	2012年 3月	2013年 3月	2014年 3月	2015年 3月	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	2020年 3月
売上高	(百万円)	107,928	105,968	104,514	91,230	103,156	105,991	118,848	113,663	96,586	99,849	98,218	103,676	109,123
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	2,429	1,404	5,873	2,124	2,330	4,298	6,711	6,016	5,412	5,260	4,184	3,728	4,869
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	1,916	417	2,761	848	1,853	2,724	4,121	4,110	3,139	2,987	2,518	▲231	4,116
包括利益	(百万円)	—	—	—	975	2,272	2,950	4,270	4,605	2,932	3,400	3,096	691	3,594
純資産額	(百万円)	14,946	15,550	18,353	19,090	21,394	24,495	28,108	32,740	35,008	37,897	40,375	40,537	43,483
総資産額	(百万円)	79,437	72,966	76,534	68,945	73,551	74,291	80,097	80,156	81,193	79,998	89,426	89,813	84,027
1株当たり純資産額	(円)	306.15	318.01	372.95	386.95	426.58	474.74	544.41	634.31	676.97	7,310.64	7,769.38	7,778.06	8,348.82
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)	(円)	39.79	8.62	56.91	17.47	38.12	54.92	81.20	81.00	61.89	589.02	496.68	▲45.67	812.28
自己資本比率	(%)	18.6	21.1	23.7	27.2	28.6	32.4	34.5	40.1	42.3	46.3	44.0	43.9	50.4
自己資本利益率	(%)	14.0	2.8	16.5	4.6	9.3	12.1	15.9	13.7	9.4	8.4	6.6	▲0.6	10.1
株価収益率	(倍)	2.79	14.50	3.04	11.10	6.53	6.23	5.04	4.99	6.06	5.65	8.17	—	3.69
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲999	3,384	7,468	1,139	4,340	4,217	1,875	3,284	10,266	1,297	10,959	3,262	▲3,734
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲547	339	▲625	▲919	▲1,246	▲1,172	▲1,834	▲1,294	▲2,579	▲1,905	▲779	▲3,250	▲1,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲2,361	▲3,501	▲4,031	▲1,385	▲1,532	▲2,008	▲2,460	▲1,912	▲2,435	▲1,031	▲910	▲1,890	▲2,878
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	7,324	7,546	10,324	9,159	10,720	11,757	9,338	9,415	14,667	13,027	22,298	20,419	12,053
従業員数(外、平均臨時雇用者数)	(名)	1,502 (547)	1,495 (513)	1,477 (506)	1,475 (495)	1,443 (492)	1,405 (519)	1,397 (534)	1,433 (533)	1,466 (495)	1,515 (456)	1,532 (497)	1,553 (531)	1,558 (516)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

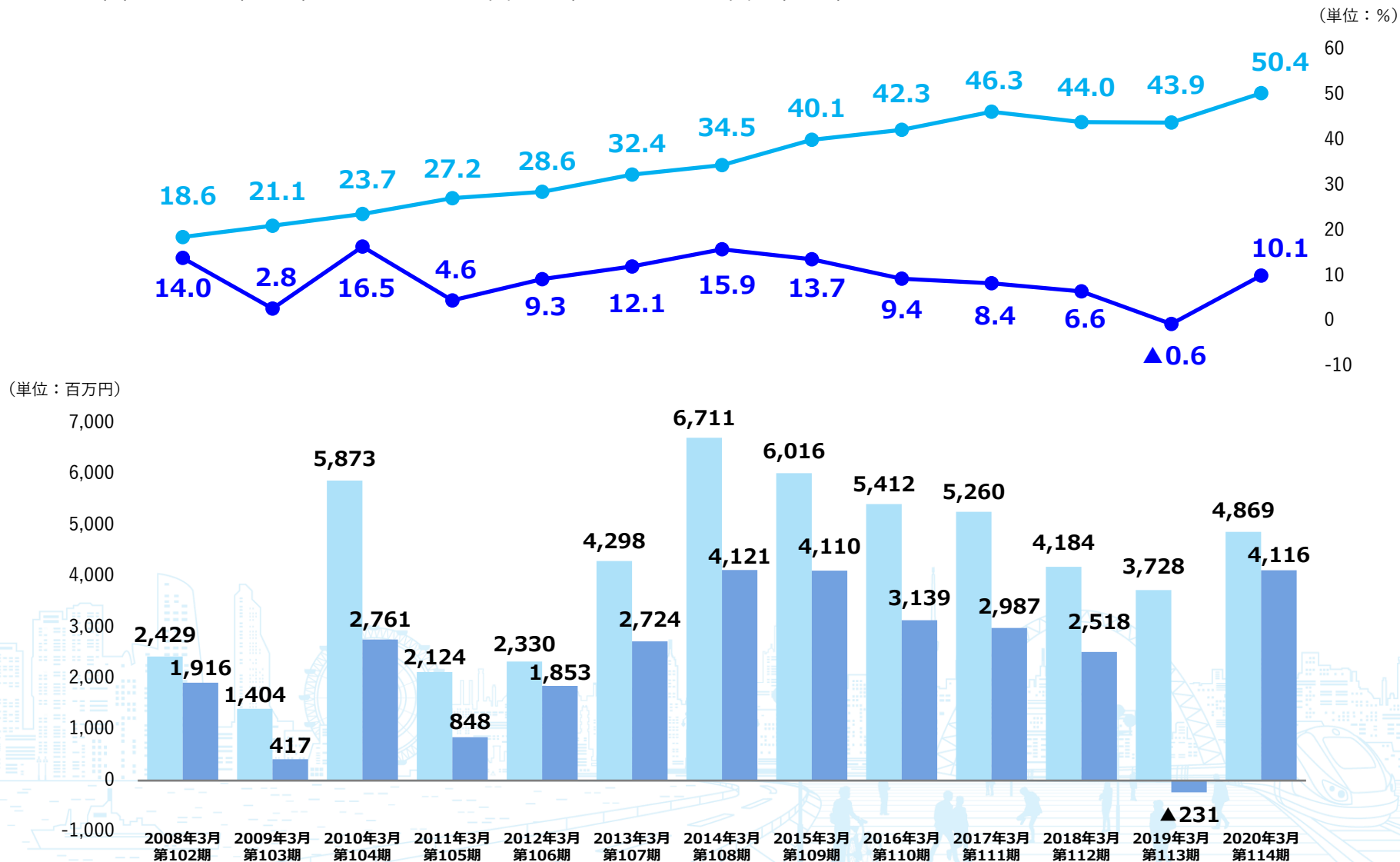
2 当社は、2017年10月1日付で株式併合(10株を1株に併合)を実施いたしました。第111期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。

3 『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第113期の期首から適用しており、第112期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

4 第113期の株価収益率は、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## 連結経営指標の推移

■ 経常利益 ■ 当期純利益 ● 自己資本比率 ● 自己資本利益率



# 4 会社概要



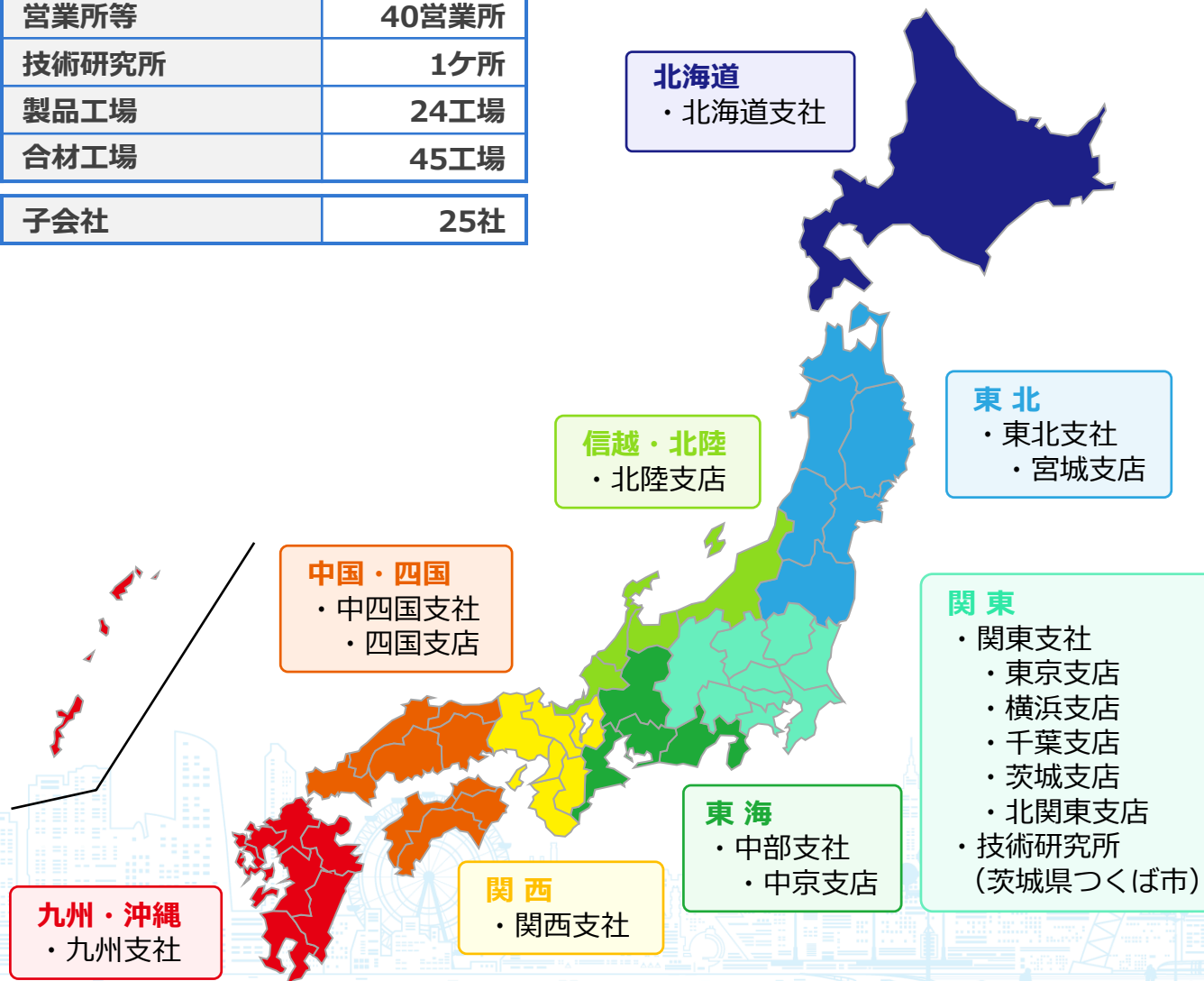
## 経営理念

これからの時代に尚一層価値のある  
「真のサステイナブル企業」となるため、  
お客様満足度を高め、人材・技術・企業力を磨く努力を  
今後もたゆまず続けてまいります。

会社名	東亜道路工業株式会社
設立	1930年11月28日
本社所在地	東京都港区六本木七丁目3番7号
代表者名	取締役社長 森下 協一
資本金	75億84百万円（2020年3月31日現在）
売上高	1,091億23百万円（2020年3月期）（連結）
経常利益	48億69百万円（2020年3月31日現在）
従業員数	1,558名（2020年3月31日現在）（連結）
株式取引市場（証券コード）	東京証券取引所市場第一部（1882）
建設業許可	国土交通大臣（特-1）第3226号

# 4 主な事業所・研究所・連結子会社等

営業所等	40営業所
技術研究所	1ヶ所
製品工場	24工場
合材工場	45工場
子会社	25社



本 社



技術研究所



# 4 工事実績の紹介 (スポーツ施設)

国立競技場

【写真提供：大成建設株式会社】



JFA夢フィールド



駒澤大学野球場



東北大学サッカー場



徳島市陸上競技場



東京女子体育大学テニスコート







## ファスト・アス

ファスト・アスは、使いやすさを追求した改質アスファルト乳剤系の小規模用常温硬化型路面補修材です。段差や継目などの修正、荒れた路面のリフレッシュや見た目の改善など、様々な用途に使うことができます。



## EGカラー

EGカラーは、アスファルト舗装やコンクリート舗装を簡単にカラー化し、新しい舗装のように若返らすことができる塗料です。耐久性に優れ、ハイグリップで安全な路面を提供します。ローラバケなどを使い簡単に施工ができるため、誰でも簡単に施工が出来ます。



## 補修でGO!

補修でGO!は、小規模の補修に適したスプレー缶入りプライムコート・タックコート剤です。既設路面にスプレーを吹き付けることで、特殊アスファルトが補修材との優れた接着力を発揮します。



## TOKEパック

TOKE・パックは、常温合材を片手でも扱えるサイズに袋詰めした投げ込み式の全天候型ポットホール用緊急補修材料です。袋内の混合物はカットバック系アスファルト混合物であり耐久性が高く車両走行により徐々に均されることで、ポットホールの端部まで充填可能です。

本資料における予想、計画など将来に関する事項は、現時点において入手可能な情報ならびに当社が判断した前提および仮定に基づくものであり、実際の業績は今後の事業環境の変化等、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。



# **東亜道路工業株式会社**

お問い合わせ先

管理本部

**TEL** 03-3405-1811

**FAX** 03-3405-9800

**URL** <https://www.toadoro.co.jp>

